

## 佐賀県研究成果情報

モモの棚栽培に適した中生品種「大玉あかつき」					
[要約] 本県における <u>モモの棚栽培</u> に適した中生品種として、果実品質が優れ、生理障害の <u>ヤケ果</u> の発生が極端に少なく、また 20cm 以下の優良な結果枝が確保できる「 <u>大玉あかつき</u> 」が有望である。					
果樹試験場・落葉果樹研究担当				連絡先	0952-73-2275
部会名	果樹	専門	栽培	対象	モモ

### [背景・ねらい]

本県におけるモモ栽培の主力品種は「日川白鳳」であるが、品種構成に偏りがあり、この前後に収穫できる品種がほとんど導入されていない。棚栽培で多くみられるヤケ果の発生が少なく、優良な結果枝が確保でき、「日川白鳳」に続いて収穫可能な中生品種を選定する。

### [成果の内容・特徴]

1. 「大玉あかつき」の糖度は高く、他の品種より優れる。また、他の品種に比べ、モモの棚栽培で特に問題となるヤケ果の発生が非常に少ない（表1）。
2. 「大玉あかつき」は新梢の発生数が多く、20cm 以下の優良な結果枝の割合も多い。（図1、図2）。
3. 棚栽培において「大玉あかつき」は果実品質に優れることとヤケ果の発生が少ないことに加えて、現在棚栽培されている「日川白鳳」に引き続いて収穫可能な中生品種であることから、本県における棚栽培用品種として有望である。

### [成果の活用面・留意点]

1. 棚栽培は収穫期間が短いため、収穫が遅れないように注意する。
2. 棚栽培では、収穫前に高温が続くとヤケ果が発生しやすいため、新梢の誘引等で日焼け防止対策を行う。
3. 「大玉あかつき」は核割れ果の発生がやや多いので、摘果は一度に行わず、満開後2週間頃より3回程度に分けて行う。

[ 具体的データ ]

表1 品種別の収穫日、果実重、果実品質および生理障害果率

品 種	収穫日 月・日	果実重 ( g )	糖度 ( Brix )	pH	ヤケ果 ( % )	核割れ果 ( % )
大玉あかつき	7・9	241.1b	10.7ab	4.6b	1.6	7.0
勘助白桃	7・11	247.2b	10.1b	4.9a	18.9	4.4
入江白鳳	7・5	240.3b	10.4b	4.9a	12.8	2.8
長沢白鳳	7・17	263.7a	11.2a	4.5b	12.3	1.9

注) 1、場内植栽、雨よけ施設棚栽培、6年生樹、2本主枝仕立て。

2、収穫日、果実重、糖度は2002年・2003年、その他は2003年の調査結果。

3、Tukey-Kramerの多重検定により異なる英字間に5%水準で有意差有り。

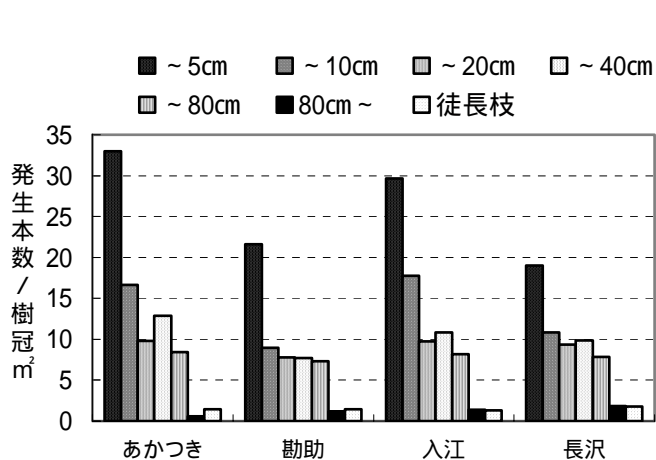


図1 品種別・長さ別新梢発生密度(H14)

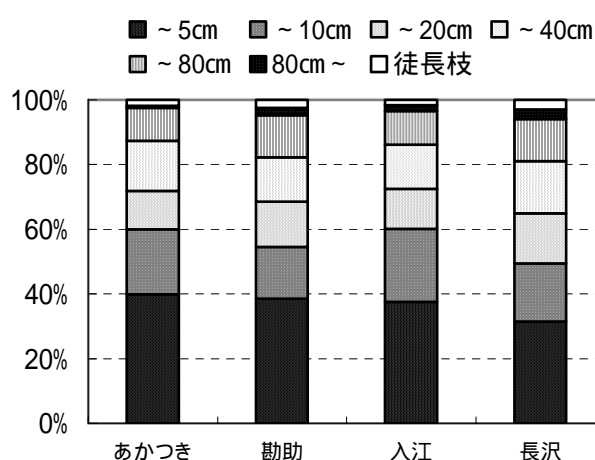


図2 新梢長さ別発生割合(H14)

注) 1、場内植栽、棚栽培、5年生樹、2本主枝仕立て、2002年6月末から雨よけ施設栽培。

2、新梢管理は5月～7月に3回と9月下旬に徒長枝抜きと誘引を行った。

3、新梢長の測定は11月下旬に行い、80cm以上の枝で副梢の発生したものを徒長枝とした。

[ その他 ]

研究課題名：核果類の施設化を中心とした生産安定技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2001年～2005年

研究担当者：前山美和、稲富和弘、福田浩幸

発表論文等：2002年、2003年佐賀県果樹試験場業務年報